

令和3年度 第2回先進的介護「北九州モデル」推進に関する評価委員会  
会議録

1 開催日時

令和4年3月28日(月) 10時～11時30分

2 開催場所

北九州市役所 15階 15C会議室(小倉北区内1-1)

3 出席者(五十音順)

木戸委員 工藤委員 黒木委員 橋元委員 矢野委員  
角屋委員 (欠席:田代委員)

4 会議経過

【議題1】当委員会における評価尺度について

事務局

第1回評価委員会でいただいた、「誰の視点で、何に対しての評価かをはっきりさせる」というご意見をもとに、事務局の方で評価尺度を設定した(※資料「評価意見整理表」)。

評価対象の施設としては、特別養護老人ホームを基本に、今後北九州モデルの展開を検討している老人保健施設やグループホームの視点も踏まえて評価をお願いしたい。

委員

各委員には、本日の意見交換を踏まえて、評価意見整理表に評価を記入してもらい、事務局で評価委員会の意見として集約してもらいたい。

委員

事務局案の方向性は十分理解できるが、資料に示されたことば(例:「介護の科学化」など)の意味・定義をもう少し整理すべきであるし、大局的なものは整理すべきと考える。

委員

この問題意識は非常に重要であるが、すぐに論点整理できるものでもないので、評価委員会を続けていく中で、委員の共通認識を形成したい。

## 【議題2】令和3年度の取組結果と今後のロードマップについて

(※事務局から、各「取組のカテゴリー」より取組名ごとに内容を説明)

### 委員

全国的に、施設の ICT 導入、例えばインカムについても、普及率は2割くらいという資料があり、経営者の先進的取り組みに対する理解がまだ薄いと感じている。評価委員会を実りあるものにするためには、そういった要因や課題についても議論していきたい。

### 委員

国全体の課題である働き手不足、生産性年齢の人口の減少に向き合っていくためには、施設経営者の視点は、非常に重要なポイントだと思う。

### 委員

市の取組について、評価意見整理表の9つのマトリックスのどこに取組を注力してきたかを整理してもらえれば、議論しやすい。

### 委員

例えばリハ職を医療職という立場で常勤させることが望ましいなど、そういった意見があると、介護ロボット等の定着性が増えてくると思う。そして、単に介護の手間を減らすことだけが目的ではないという視点も出てくると思う。

また、利用者・家族・職員の生きがいやハピネスという点についてどう取り組むかという視点も必要ではないか。そのようなことをこの整理表に反映できればと思う。

### 委員

今の教育者としての研究や学説面でのご意見、それから施設経営者としての実務面でのご意見を、今後もクロスして議論ができればと思う。

### 委員

インカムを導入した場合の投資効果は、なかなか目に見えてこないのが、経営的な決断をしにくい。経営者の意思決定をサポートするために、効果の周知が必要。

### 事務局

北九州モデルの取組の中で、好事例集を作ろうと考えており、施設へのインタビューの結

果という形のようなものでお示しできればと思う。

#### 委員

今回提供されている令和元年度のパイロット事業報告書では、人材育成が重要であることが示されており、ポイントはそこにある。今後の評価ではその視点も重要である。

#### 事務局

先進介護という新たな道を切り開いていく中で、施設経営者だけでなく、介護職員、利用者、それぞれがより良い形になっていけるように導いていきたい。ビジネスモデルを提案するなど経営者のサポートも検討していきたい。